

「世界適塾」魁
—World Tekijuku Groundbreakers—

(実施期間：平成 26～28 年度)

実施機関：大阪大学（総括責任者：吉川 秀樹）

採択プログラムの概要

大学院生、若手研究者が、社会的課題を解決する研究デザインや研究成果の事業化に取り組むことで成長し、ベンチャー企業や新事業の担い手となり、また、広くイノベーションに貢献する人材となることを促進する。さらに、将来、知識基盤社会における人類的、社会的課題の解決のための事業を担い、「適塾」精神を現代社会に体現したWorld Tekijuku Groundbreakersへと成長していくことを目標とする。

事業内容の中心は、実践プログラムであり、現実課題のProject-Based Learningである事業化志向の研究デザインに取り組むこと、また、新事業創生にチャレンジすることである。海外先進事例に実践的に学びグローバルレベルのイノベーション人材育成手法を開発する。また、幅広いグローバルネットワークを基盤とする、社会的価値創造によって、社会的に支持される、持続的エコシステムの形成を目指す。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	成果	計画・手法の 妥当性	補助事業期間 終了後における 取組の継続性 ・発展性
A	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

事業構想力・実践力をもつアントレプレナー人材の育成プログラムや海外派遣プログラム等について既存の取組みを改良してプログラム1（PG1）からプログラム3（PG3）と名づけられた実践的教育プログラムを実施し、受講者数やその他の目標について、すべて計画を達成している。ベンチャーの創業や連携企業における事業化は9件であり、総じて所期の計画に沿った成果を上げていると評価できる。

・**目標達成度**：育成する人材を研究成果を社会実装する高度科学技術人材、高度な課題解決に挑む事業開拓者、多様なイノベーション推進者の3タイプと設定し、プログラムの受講者数は3年間で406人で、目標を上回っている。当初に計画したその他の目標である、事業志向研究課題数、事業化に向けたキーとなる契約、大学発ベンチャー設立、外部機関の参画、イノベーティブな研

究開発や事業に取り組む人材の増加等はいずれも目標を達成している。採択時の留意事項である副幹事校としての取組も適切に行われており、総じて所期の目標に達していると評価できる。

・**成果**：既存の教育プログラムに、海外のプログラムの手法を採り入れて、独自に国内向けプログラムとして整備していることは評価できる。実践的な教育を実施し、メンターも適切に活用している。外部と連携した産業創出となっており、知財の評価を実施し、ギャップファンドの提供による実証データ取得、試作品開発を行い、実用化を進めている。継続的なコミュニケーションを行うために EDGE-CONNECT と名づけたイベントを3年間で20回実施しており、行政等の公的機関との連携を達成して事業を進めたことも評価できる。受講者数は年々増加しており、ベンチャーの創業や連携企業における事業化は9件であり評価できる。

・**計画・手法の妥当性**：実施組織である産学連携本部運営会議への報告による定期モニタリング、理事主宰による人材育成の全学組織である若手研究人材ラウンドテーブルによるモニタリングが実施されている。参加者の満足度は80%以上と高い水準であり、また、大阪府立大学、横浜国立大学との連携を行っていることは評価できる。今後も本事業に選定されていない大学への普及やノウハウの共有を積極的に推進することを期待する。

・**補助事業期間終了後における取組の継続性・発展性**：本プログラムの成果を活かし、イノベーション人材の育成強化のために、平成29年度より産学連携本部を産学共創本部と改組し、共創人材育成部門として恒常的組織を設置している。それによって、他大学、企業、UCSDおよび大阪イノベーションハブ等の支援行政機関等のイノベーション・エコシステムとのネットワークが維持・継続されて、基礎研究から商品化までの一連のプロセスに対応できる体制が整っていることは評価できる。カリキュラムの単位化、学部や博士・若手研究者への展開は外部資金を導入しながら実施していく計画であり、資金計画については精査が求められるが、総じて補助事業期間終了後における取組の継続性・発展性が期待できる。